

第 528 号
7 年 (2025)

6

静岡県

PTA 新聞



新たな可能性を創造しよう

次世代へ繋ぐために

これからの 1 年

新年度役員へバトンタッチ



静岡県 PTA

静岡県 PTA 連絡協議会



■ ■ ■ 主な内容 ■ ■ ■

- ◆ 会長就任にあたり 1
- ◆ これからの1年
令和7・8年度の活動方針 3
- ◆ 令和6年度役員から令和7年度新役員へバトンタッチ 5
- ◆ 池上静岡県教育長を表敬訪問（5月14日） 7
- ◆ 県P連役員を経験して 12
一退任役員からのメッセージ
- ◆ 東部地区・中部地区・西部地区 14

P連の新役員紹介

【マークの説明】

< デザイン >

「ふじのくに」静岡の象徴として富士山をモチーフとし、静岡県の形を図案化しました。

つないだ手には、未来を担う子どもたちの健全な育成のために、家庭・学校・地域が連携し、笑顔あふれるつながりの輪（和）を広げていこうという思いを込めています。

< カラー >

静岡の海と大きく広がる空をイメージした「青」で子どもたちの成長を見守る富士を、そして降り注ぐ太陽の光をイメージした「オレンジ」でつないだ手をつないだ手の暖かさと団結の力強さを表しています。

会長 就任に あたり

1 本質の見極めと意識の向上

2 未来創造と新しい可能性への挑戦

3 対話と調和の重視

扇の要としての PTA の力を信じ

共に心を合わせて未来へと続く感を！



この度、静岡県 PTA 連絡協議会の会長を拝命することになりました^{ながさわひでゆき}長澤秀幸と申します。

新年度のスタートにあたり、日頃より子どもたちの健やかな成長を願い、さまざまな場面でご尽力くださっている保護者の皆様、教職員の皆様、そして地域の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。皆様の温かく力強いご支援が、PTA 活動の土台となっております。

さて、近年、私たちの社会はかつてないスピードで変化し続けています。子どもたちの育つ環境も、これまでにないほど多様化・複雑化し、学校現場におけるいじめの認知件数の

増加や、子どもたちの心のケアの重要性、GIGA スクール構想による ICT 導入による急速な教室の環境の変化、そして生成 AI など先端技術の登場など、今まで経験のしたことのない課題と向き合う時代を迎えています。

これから迎える変化の大きな時代、何よりも大切なことは「PTA は誰のために、何のために存在するのか」という原理原則への問いを持つことではないでしょうか。

PTA の役割は、「子どもたちの健やかな成長のために、家庭・学校・地域が協力・連携し支えていくこと」です。私たち家庭の大人が、現場の先生方と手を携え、地域全体で子どもたちを見守り育てるという意識が、いま求められているのです。

主語を「子どもたちの健やかな成長のために」から始め、共に歩む存在でなければならないように感じます。私たち静岡県 PTA 連絡協議会は、今年度より従来の全国組織からの独立という大きな決断をいたしました。これは単なる組織的な変更ではなく、「静岡の子どもたちのために、静岡ならではの PTA 活動を自らの手で創り上げていく」ことであり、この節目を「自立」と「自律」という二つのキーワードで進めていきたいと考えています。

「自立」は、自らの足で立ち、地域の実情に応じた行動を起こす力。「自律」は、自らを律し、子どもたちのために責任と信念を持って行動する姿勢と考えます。この“二つのじりつ”が、未来を担う子どもたちに誇れる地域社会の基盤を築いていくと、私は確信しています。

この想いを具現化するために、令和 7～8 年度の活動テーマとして

「家庭・学校・地域がつながりあい 子どもを育てる PTA 活動の推進

～新たな可能性を創造しよう、次世代へ繋ぐため～

を掲げさせていただきました。これは、少子化や価値観の多様化が進む今だからこそ、「子どもたちの未来のために」にフォーカスして、私たち大人がどのような責任と役割を果たすべきかを改めて問い直していきませんか。（具体的なことにつきましては、次のページにある活動方針をご覧ください。）

PTA について話を戻しますと、私は、PTA 活動とは「未来への投資」だと考えています。目の前の課題に対応するだけでなく、10 年後、20 年後の地域や社会を担う子どもたちが、豊かに、そして誇り高く生きていけるよう、今私たちができることを積み重ねていく営みと考えています。

PTA を「扇」に例えてイメージしてみます。各家庭や学校、地域という骨組みがどれだけあっても、要がなければバラバラに開くだけで、力を持てません。PTA という「要」があるからこそ、個々の想いや力が結びつき、意味ある活動が実現します。

どうか、すべての PTA 会員の皆様におかれましても、この“扇の要”としての PTA の力を信じ、共に心を合わせ、未来へと続く風を起こしていきましょう。皆様の想いのご協力が、子どもたちの笑顔と希望につながっていくと信じています。

最後に、静岡県 PTA 連絡協議会への変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



令和7・8年度 活動方針

<第1議案>

家庭・学校・地域がつながりあい 子どもを育てるPTA活動の推進

～新たな可能性を創造しよう、次世代へ繋ぐため～



令和7～8年の活動方針では、サブテーマとして「～新たな可能性を創造しよう、次世代へ繋ぐため～」を掲げさせていただきました。

令和6年度、私たち静岡県連絡協議会では、大きな組織から離れ、静岡県として『じりつ』することを選択しました。この選択は静岡県内の組織が輪となり和をもって進めていくことの重要性が明確になると同時に、子供たちの次世代へ繋ぐため、「じりつ」（自立・自律）ある行動がとても大切となります。

そこで、こどもたちの未来を見据えた時代の変化に対応するため、2つの「じりつ」を軸に活動を推進してまいります。

・「自立」とは、一人一人が自分の能力を最大限に発揮し、こどもたちのために立ち上がり目標に向かって行動するチカラ。（自らを「立たせる」）

・「自律」とは、一人一人が自分の行動に責任を持ち、こどもたちの成長を支えるための前向きな意識で意図するチカラ。（自らを「方向づける」）

この「自立」と「自律」の組み合わせによって、県内のPTAが強く結びつき、子どもたちのための未来づくりに向けてより良い環境を描き出すことを目指していききたいと思います。

私たちは生活の中で、目の前に見えるもの、見えることにフォーカスされがちです。しかし、見えない先のこと、つまり未来まで見据え、子どもたちがこれからも元気に育つように、私たちの家庭、学校、地域が一体となって支える環境づくりに向けた行動が重要と考え、3つの基本方針を以下のようにまとめました。

子どもたちの健やかな成長に向けた3つの基本活動方針

1. **本質の見極め、目標に向けた意識の向上** — 子どもたちの成長に有益な本質を見極め、すべての活動がこの目標に向けられるよう意識の向上につとめよう。
2. **未来創造、新しい可能性への挑戦** — 既存の枠組みを超えて新しい可能性を探り、未来に向けた創造的な取り組みを推進しよう。
3. **対話と調和** — 次世代の子どもたちの環境づくりに向け、家庭、学校、地域の連携と協力を強化し、調和のある社会を構築しよう。

令和7～8年度の活動方針には、これまでの活動方針を継承しながらも、新しい時代に対応した「3つの基本軸」を心根に、今の子どもたち、次代の子どもたちのために、各地区のPTA連絡協議会と協力し静岡県のPTA活動の環境づくりを促進してまいります。



○ 重点事項

領 域	重 点
1 PTA組織 と運営	(1) 会員意識の高揚を図ろう。 (2) 魅力ある組織と運営を目指そう。 (3) 父親の活動への積極的参加を推進しよう。
2 家庭教育	(1) 「教育の原点は家庭にある」との認識に立ち、社会規範の育成・基本的生活態度の定着・思いやりの心の育成・心身の逞しさの育成等に努力しよう。 (2) 家庭・学校・地域との連携を図り、心豊かな子どもの育成に努力しよう。 (3) 子どもが心地よい居場所を持てる温かな家庭を創り、親子の絆を深めよう。
3 教育環境	(1) 情報機器（PC・携帯電話等）の正しい使い方を身に付けさせよう。 (2) 関係機関と連携し、子どもを取り巻く環境浄化に努めよう。（TV・図書・広告等） (3) 学校・地域の（人的・自然）教育環境をよくしよう。
4 人権・共生	(1) 命の尊さ、他を思いやる豊かな心を育む活動を推進しよう。 (2) 家庭・学校・地域が連携して人権共生意識の高揚を図ろう。 (3) 他団体とも連携し、いじめや虐待・暴力を根絶しよう。
5 健康・安全	(1) 心身ともに健康な子どもを育てよう努力しよう。 (2) 子どもの食生活の向上に努力しよう。 (3) 学校・地域・警察等と連携し、子どもを危険から守ろう。（交通安全・防犯等）
6 広報活動	(1) 魅力ある広報紙を工夫しよう。 (2) 会員を繋ぎ、意識を高め、役に立つ情報を提供する広報活動に努力しよう。 (3) 情報化時代に適応する多様な情報提供を工夫しよう。
7 地域連携	(1) 地域の特色を生かした子どもの社会参加を支援しよう。 (2) PTA・学校・地域を結ぶネットワークづくりに努力しよう。 (3) 子どものボランティア精神の育成を図ろう。
8 多文化共生	(1) 郷土を愛するとともに、他国の様々な文化も尊重できる子どもを育てよう。 (2) 様々な国の人たちと交流できる活動を推進しよう。 (3) 交流体験を通じてコミュニケーション能力を育成しよう。
9 学校教育 への協力	(1) 教育改革への理解を深めよう。 (2) 学校の教育活動と関わり、「生きる力」を育む支援や協力を努めよう。 (3) PTAが、学校と地域社会の接点にあることを理解し、地域を取り込んで学校を支援しよう。



ありがとう
ございました
退任者等

令和6年度役員から 令和7年度役員へ バトンタッチ



1. 県P連役員退任者（12名）

前役職	地 区	氏 名
会 長	静 岡 市	宮下 修 一
副 会 長	伊 東 市	大川 勝 弘
副 会 長	焼 津 市	池谷 尚 志
副会長・会計理事	静 岡 市	溝口 玲 子
理 事	校 長 会	杉山 順 子
理 事	伊 東 市	工藤由紀重
理 事	静 岡 市	鈴木慎太郎
理 事	榛原地区	川口 理 沙
理 事	袋 井 市	松下 満 彦
監 事	沼 津 市	加藤 千 恵
監 事	島 田 市	磯田 辰 哉
監 事	湖 西 市	永田 晴 康

2. 地区P連会長退任者（14名）

地 区	氏 名
賀茂地区	松浦 城 太 郎
田方地区	秋 元 健
伊 東 市	利 岡 正 基
熱 海 市	蛭 田 泰 造
三 島 市	寺野下 昌 秀
南駿地区	小野塚 鉄 平
裾 野 市	薄 井 康 夫
御殿場市	勝間田 賢 一
沼 津 市	梅 田 祐 希
焼 津 市	油 井 大 佑
榛原地区	杉 本 真 一
小笠地区	堀 井 克 芳
森 町	中根 正 太 郎
磐 田 市	高 橋 晃 太

3. 地区P連事務局退任者（5名）

地 区	氏 名
賀茂地区 PTA 連絡協議会	原 秀 和
田方地区 PTA 連絡協議会	高 田 英 雄
沼津市 PTA 連絡協議会	杉 本 雅 弘
磐田市 PTA 連絡協議会	大橋 加代子
浜松市 PTA 連絡協議会	大 澤 重 義

〈感謝状〉

4. 令和6年度静岡県 PTA 研究大会

静岡市 PTA 連絡協議会

よろしく
おねがいします
新役員

県P連を支える 役員の皆様です

令和7年度地区P連事務局名簿

地 区	事 務 局 名	氏 名
賀茂地区	賀 茂 教 育 会 館	森本 秀樹
田方地区	田 方 教 育 会 館	園田 道生
伊 東 市	伊 東 市 立 門 野 中 学 校	末吉 浩嗣
熱 海 市	熱 海 市 立 多 賀 中 学 校	元矢 裕己
三 島 市	三 島 市 立 中 郷 中 学 校	長谷川順子
南駿地区	清 水 町 立 西 小 学 校	加藤 紀彦
裾 野 市	裾 野 市 立 南 小 学 校	住沢 孝治
沼 津 市	沼 津 教 育 会 館	遠藤 宗男
御殿場市	御殿場市立御殿場中学校	持田 晃寿
小 山 町	小 山 町 立 明 倫 小 学 校	滝口 卓巳
富 士 市	富士市教育委員会 学務課	鈴木 秀江
富士宮市	富士宮市教育委員会 社会教育課	水越 史明
静 岡 市	静岡市教育委員会 学校教育課	秋山 直幸
焼 津 市	焼 津 市 立 大 村 中 学 校	池谷 涉
藤 枝 市	藤 枝 市 立 瀬 戸 谷 小 学 校	伊藤 綾子
島 田 市	島 田 市 立 初 倉 南 小 学 校	石塚 啓絵
榛原地区	牧之原市立川崎小学校	石間 克俊
小笠地区	小 笠 教 育 会 館	鈴木 洋一
森 町	森 町 立 旭 が 丘 中 学 校	加藤 美保
磐 田 市	磐田市教育委員会 学校教育課	渡邊 浩之
袋 井 市	袋 井 市 立 浅 羽 中 学 校	松下 恭子
湖 西 市	湖西市立白須賀小学校	三島 昌美
浜 松 市	浜 松 市 教 育 会 館	山田 芳和

〈専門委員会〉

成人教育委員会	顧問 山崎 貴美	委員長 多米 治彦
広報委員会	顧問 山崎 豊	委員長 杉山 暁彦
校外生活指導委員会	顧問 横山 敦志	委員長 小澤 貴弘
家庭教育委員会	顧問 大根 富木	委員長 太田かおり

〈事務局〉

静岡県PTA連絡協議会	
静岡市葵区駿府町 1-12 静岡県教育会館 4階	
〈TEL〉 054-252-8223	
〈FAX〉 054-251-9672	
事務局長 生田目 治善	

令和7年度 静岡県PTA連絡協議会役員名簿

〈敬称略〉

役 職	地 区	氏 名	所属単位PTA
会 長	浜 松 市	長澤 秀幸	浜松市立東部中学校
副会長	校長会	大根 富木	磐田市立城山中学校
副会長	小 山 町	山崎 豊	小山町立小山中学校
副会長	藤 枝 市	横山 敦志	藤枝市立岡部中学校
副会長	磐 田 市	山崎 貴美	磐田市立豊田南中学校
副会長・総理事	浜 松 市	太田かおり	浜松市立細江中学校
理 事	校長会	吉村 康宏	磐田市立磐田北小学校
理 事	田方地区	杉山 暁彦	伊豆市立中伊豆小学校
理 事	伊 東 市	土屋 征二	伊東市立門野中学校
理 事	御殿場市	縄田 江梨	御殿場市立御殿場中学校
理 事	静 岡 市	小澤 貴弘	静岡市立東中学校
理 事	焼 津 市	四之宮慎一	焼津市立大村中学校
理 事	小笠地区	森 浩子	掛川市立大浜中学校
理 事	磐 田 市	濱田 祐輔	磐田市立神明中学校
理 事	湖 西 市	江川 琢哉	湖西市立白須賀小学校
理 事	袋 井 市	大石 希和	袋井市立浅羽中学校
監 事	富士宮市	荻 真教	富士宮市立富丘小学校
監 事	榛原地区	池ヶ谷紀佐	牧之原市立川崎小学校
監 事	森 町	多米 治彦	森町立旭が丘中学校
地区P連会長	賀茂地区	中村 智子	東伊豆町立熱川中学校
地区P連会長	熱 海 市	出口 恵	熱海市立多賀中学校
地区P連会長	三 島 市	中村 晃	三島市立中郷中学校
地区P連会長	南駿地区	古森 愛奈	清水町立西小学校
地区P連会長	裾 野 市	川村 利通	裾野市立南小学校
地区P連会長	沼 津 市	伊奈 知美	沼津市立浮島小学校
地区P連会長	御殿場市	北村 和之	御殿場市立御殿場中学校
地区P連会長	小 山 町	鈴木 達哉	小山町立明倫小学校
地区P連会長	富 士 市	服部 英之	富士市立富士中学校
地区P連会長	藤 枝 市	永井 優	藤枝市立瀬戸谷小学校
地区P連会長	島 田 市	石澤 一成	島田市立初倉南小学校
地区P連会長	小笠地区	牧野亜利香	菊川市立小笠東小学校
地区P連会長	袋 井 市	長谷香奈枝	袋井市立浅羽中学校
地区P連会長	浜 松 市	有蘭亮太郎	浜松市立雄踏小学校

回答を いただきました

2025年3月21日。静岡県PTA連絡協議会を代表して、会長・副会長が池上教育長に面会し、児童・生徒が安心安全に学ぶことができるよう環境整備することを求める要望書を提出し、その回答をいただきました。

静岡県PTA連絡協議会からの要望書回答

要 望	回 答	担当課
1 子どもたちが豊かな学びを得るための教員の働き方改革推進とメンタルケアの充実 子どもたちが学校において豊かで十分な学びを得ることができるようにするために、授業以外の業務の軽減を含む教員の働き方改革を引き続き進めるとともに、教員定員を充足し、さらに教員数を拡充するとともに、そのための人材を確保するように努めていただきたい。また、悩みを抱える教職員のメンタルケア等のサポートの充実化を図り、教職員が安心して子どもたちと向き合える環境を整えていただきたい。	教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、スクール・サポート・スタッフを全校に配置しております。また、令和7年度から幼児教育から小学校教育への円滑な接続（小1ギャップの解消）及び不登校やいじめへの予防的対応として、小1の31人以上の学級を有する学校に対し、支援員（小1スマイルサポーター）を配置することで、教員の負担軽減を図ってまいります。さらに、県全体の欠員数や未補充の状況を鑑み、当初の新規採用者数計画を見直し、必要とする人材の確保に努めてまいります。	義務教育課 教育厚生課
2 子どもたちのメンタルケアと子どもの居場所づくりへ向けた支援の充実 近年、ますます必要性が大きくなってきているスクールカウンセラー制度のさらなる充実強化を図り、不登校・経済的困窮・虐待等、さまざまな悩みを抱える子どもたちのメンタルケアを行うための支援に万全を期していただきたい。また、そのような子どもたちの居場所を確保できるよう、学校の内外におけるサポート体制を強化していただきたい。	子どもたちのメンタルケア等をより充実させるため、スクールカウンセラー等の拡充について、引き続き国へ要望していきます。居場所の確保として、公的施設や民間施設等と連携し、各種協議会を開催するとともに、民間施設への補助を令和6年度より始めました。また、令和7年度より、校内教育支援センター拡充への補助を行い、よりサポート体制の強化ができるよう、努めているところです。	義務教育課
3 GIGAスクール構想と教育DX化の推進に伴う環境整備の促進 現在、小中義務教育学校では1人1台の情報端末をもつGIGAスクール構想やDX化が進められているが、それに対応する教員の研修等の支援や古くなった情報端末の更新・拡充等の環境整備を進めていただきたい。	授業や校務にコンピュータ等の情報手段が一層活用されるよう教職員研修等を実施します。また、端末については、国庫補助金により「静岡県公立学校情報通信機器整備基金」を令和6年度に創設し、計画的に更新を行ってまいります。	教育DX推進課
4 部活動の地域展開の円滑な実現 中学校における部活動の地域展開については、生徒の意欲や希望を尊重すること、家庭の経済状況によって取組に格差が生じないようにすること、各学校の部活動自体が縮小・廃止とならないこと等に十分配慮しつつ、円滑な実現に努めていただきたい。	中学校の部活動の地域展開は、スポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障するという趣旨に基づき、生徒を中心においた教育環境の整備として取り組む必要があり、設置者である各市町において取組が進められております。県教育委員会では、子どもたちが心身ともに健康な成長を遂げられるよう、市町と連携し、地域の実情に応じた展開ができるよう丁寧に進めてまいります。	健康体育課

要 望	回 答	担当課
5 コミュニティ・スクールと小中一貫教育を推進するための地域人材の確保 コミュニティ・スクールと小中一貫教育が各地で推進されているが、その担い手となる地域の人材の育成・確保に努めていただきたい。特に、学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）や放課後子ども教室の担い手の育成・確保に向けた取組を支援していただきたい。	新たに地域学校協働活動推進員として活躍を期待される方を対象とした地域学校協働活動推進員等養成講座を実施し、推進員として必要な知識や技能の習得を支援しております。また、令和7年度からは、既に地域学校協働活動推進員として活躍されている方を対象とした、地域学校協働活動推進員フォローアップ研修を立ち上げ、推進員の知識のアップデートや技能の向上、推進員同士の交流を支援してまいります。	社会教育課
6 学校施設の整備と快適な学習環境の確保 各学校においてすべての特別教室・体育館にエアコンを速やかに設置する等、学校施設の充実・強化を図り、子どもたちが安心して、かつ安全に学ぶことができる環境整備を促進するために必要かつ十分な予算を確保するよう、国に働きかけていただきたい。	全国公立学校施設整備期成会等を通じ、国に対し、学校施設環境改善交付金等の十分な財源確保と支援の充実を働きかけてまいります。	教育施設課
7 学校の統廃合後の地域・PTA支援の強化と学習環境の維持 学校の統廃合により児童生徒の学習環境が大きく変わらないように努めるとともに、地域コミュニティやPTA組織の活動を支援していただきたい。特に、山間地における学校の統合に際しては、スクールバスの確保等を確実に行い、通学等に支障が出ないよう、支援をしていただきたい。	全国都道府県教育長協議会及び全国都道府県教育委員協議会を通じて、学校再編整備に伴い遠距離通学を余儀なくされる児童生徒のために、スクールバス等の経費に対する財政支援を拡充することと合わせ、市町の実情に応じて柔軟に対応できるよう制度の改善・充実を国に求めているところです。また引き続き、へき地児童生徒援助費等補助金の活用について、市町に周知を図りつつ、申請及び交付決定に際して、適正な事務処理に取り組んでまいります。	社会教育課 義務教育課
8 学校と通学路の安全確保に向けた啓発の強化 子どもたちが安心して学校で学ぶことができるように、学校及び通学路の安全の確保及び防犯対策の向上に関する啓発を強化するよう努めるとともに、市町や関連団体等に働きかけていただきたい。	通学路における合同点検により、令和7年3月までに県内すべての通学路において対策を完了しております。今後とも、市町教育委員会学校安全担当者連絡会等で通学路の安全確保及び防犯対策について呼びかけてまいります。	健康体育課
9 防災対策の強化 南海トラフ地震等の発生を想定し、子どもたちの生命を守るために、地域と学校が一体となった避難訓練の実施や学校内外の避難経路の確認等、防災対策をより一層強化するよう努めるとともに、市町や関連団体等に働きかけていただきたい。	学校と地域が連携した防災教育及び防災管理体制の充実を図るため、各学校に対し、学校・自主防災組織・市町等で構成する「防災教育推進のための連絡会議」を年1回以上開催するよう依頼しております。引き続き、当会議において、地域と学校が連携した防災訓練の実施や災害時の対応について協議するよう働きかけてまいります。	健康体育課
10 バランスがとれた給食の提供・充実と給食の無償化の公平な推進 物価の高騰により給食に必要な材料費も高騰しているが、子どもたちの成長を支えるために、バランスがとれた給食を提供し、さらに充実を図るために必要な支援をするよう、国に対して働きかけていただきたい。また、給食費の無償化等の施策を進める際には、引き続き地産地消に十分に配慮するとともに、静岡県内の市町ごとに差が生じることがないよう、国に対して働きかけていただきたい。	学校給食における物価高騰対策については、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用するなど、県及び多くの市町で負担軽減に取り組んでおります。学校給食費の無償化については、国は令和7年5月中旬を目途に制度設計の方針を取りまとめるとしております。県教育委員会としては、国の動向を注視しつつ、自治体が実施する地産地消や食育の取組などについて考慮するよう、国へ働きかけてまいります。	健康体育課

教育長 表敬訪問

5月14日(水)

池上重弘静岡県教育長を表敬訪問！

みんなでスクラムを組んで！

5月14日(水)宮下修一会長と長澤秀幸副会長をはじめとして、静岡県PTA連絡協議会の三役(会長・副会長等)9名で池上重弘静岡県教育長に表敬訪問に伺いました。当日は公務で多忙な中にもかかわらず、前澤綾子教育部長と小野田秀生教育監にも同席してくださいました。

宮下会長からは日頃より県P連の活動に関し多大なるご理解とご支援をいただいていること及び昨年度提出した要望書に対する回答書(回答書はHPに記載してありますのでご覧下さい。)をいただいたことへの感謝と2年間会長として活動する中で教育長には多くの面でご協力やご支援をいただいたことへの感謝の意を述べました。そして、今後も引き続きご理解とご協力を賜りたいとの話をしました。

つづいて長澤副会長からは、令和7・8年度の静岡県PTA連絡協議会の活動方針について話しました。大きな組織から離れ、静岡県として『じりつ』することを選択した。静岡県の組織が一つの輪となり和をもって進めていくことがとても重要であること、分断の世の中、子供たちの未来を見据え、時代の変化への対応と次世代へ繋ぐために、「じりつ」(自立・自律)ある行動がとても大切であること。

そして、PTAの皆さま方がPTA活動により満足いただけるようみんなでスクラムを組み県と一緒にできることは取り組んでいきたいとの話をしました。

教育長からは日頃の静岡県のPTA活動へ対して感謝の意を述べられました。静岡県は、県、政令市、校長会、保護者・地域等、それぞれの組織が一つになって、子どもたちのために一つの方向に向かっている。このようなことができている地域はあまりない。今後も県内の学校に向けて、何かしらのメッセージを出していきたい。「今までの学校とは違うことが展開していく可能性がこれからあるということを理解していただきたい」というメッセージです。

また、今後の高校の枠組みに関することや教育へのリスペクトプロジェクトに関する話をされ、教育を社会全体で大事に大事にしていきたい。これからも静岡県のPTAの皆さまのご理解とご協力をお願いしていきたいというお話がありました。

今年も初夏の5月に県庁を訪問し、池上教育長にご挨拶することができました。

今年度の県P連の活動は今まで以上に充実し、PTA会員の皆様にとっても満足感が得られるよう努力していきたいと三役一同心に誓いました。今年度もよろしくお願いいたします。



退任役員 からの メッセージ

コミュニケーションを重ねて

みんなで創った新しいPTA のカタチ

——駆け抜けた2年間と未来へのバトンタッチ

前県 P 連会長 宮下 修一



1. 会長就任と令和5年度の活動

「家庭・学校・地域が連携し、ともに子どもを育む PTA 活動の推進～コミュニケーションを重ねて新しい PTA の形を創り出そう～」——思い起こせば2年前。谷口明前会長から県 P 連会長のバトンを引き継ぐ際に、これから会長として何をすべきか、また、従来の取組を継承しつつさらに発展させるためにはどうすればよいか、いろいろと悩んだ末に、令和5・6年度の活動方針をこのように決めました。

もっとも、令和5年度は、まだ進むべき方向も定まらず手探りが続く状態であったため、理事会や各地区 P 連会長・家庭教育委員長研修会等の場を通して、まずはみなさんの声に真摯に耳を傾けました。そのような中で、県 P 連が抱える問題点が、徐々に浮き彫りになってきました。

2. 県 P 連の課題解決へ向けた令和6年度の活動

そこで令和6年度は、①活動内容とあり方の見直し、②財政の立て直し、③各地区 P 連における意見の集約をふまえた県への要望の実現、④広報活動の充実による活動の可視化の4つを課題として設定し、その実現へ向けて動き始めました。

順不同になりますが、最も重要なのは③の取組です。各地区 P 連の意見を集約し、本年3月21日に、鈴木康友知事と池上重弘教育長に宛てて、子どもたちの教育環境改善へ向けた10項目の要望書を提出いたしました。これまでに特定のテーマについて緊急要望を提出したことはありますが、今回のようにまとまった形での要望書の提出は、静岡県としては初めての試みとなります。

また、①については、公益社団法人日本 PTA 全国協議会（日 P）からの退会という大きな変化がありました。元役員による背任という不祥事があったにもかかわらず、真相究明や改革にまったく取り組もうとしない日 P の状況を前に、2回にわたり改善を求める質問状を送付したのですが、いずれもほぼ内容がないゼロ回答にとどまったため、本年2月12日に臨時総会を開催し、全会一致で退会を決議いたしました。誠に無念ですが、県内からも日 P に加盟し続けることについて強い批判も寄せられていましたので、やむを得ない決断であったと考えております。

④については、各地区 P 連事務局への連絡とホームページの更新をこまめに行い、上記の①・③を含む県

P連の活動状況をつぶさに伝えるようにいたしました。本年度からは、県P新聞のウェブ化も実現します。

②については、徹底した経費節減に努めるとともに、昨年9月に開催した県P大会では初めて協賛金について協力をいただくなどして、従来赤字体質であった県P連の財政の健全化に一定程度成功しました。日P退会後も会費を維持する代わりに、日Pに納めていた負担金とほぼ同額であった県P新聞購読料の徴収をやめて無償化し、各地区P連の負担軽減にもつなげました。

3. 大切にしたこと——コミュニケーションの強化と意見のボトムアップ

これらの課題を解決するために大切にしたのは、コミュニケーションの強化と意見のボトムアップです。聞こえの良い話だけではなく、どんなに厳しいお話しでも必ず向き合う覚悟で、みなさまのご意見をお伺いいたしました。重要な事項については、必ず各地区P連の意向を確認し、また、自ら各地区に出向き直接貴重なお話をいただきました。東部地区（伊東市で開催）、三島市、御殿場市、裾野市、小山町、富士宮市、中部地区（静岡市で開催）、静岡市、焼津市、榛原地区（牧之原市で開催）、浜松市の各地区P連のみなさまには、文字通り忌憚のないご意見をいただいたことに感謝申し上げます。すべての地区P連に出向くことができなかったのは心残りですが、コミュニケーションを重ねることによって、まさにみんなで力を合わせて新しいカタチの県P連を創（つく）ることができたように感じております。

4. 残された県P連の課題——未来にバトンをつなぐために

しかしながら、今後、少子化により児童・生徒の人数が減少する中で県P連の活動を持続させていくためには、まだまだ改革を続けていく必要があります。社会におけるPTA活動に対する評価が揺れ動く中で、県P連の活動を続けていくためには、多くのみなさまのご理解とご協力が必要です。私からのバトンを引き継いで下さった長澤秀幸新会長を中心に、子どもたちのためにみんなで手と手を取り合って、さらにバトンを未来につないでいっていただくよう、力を合わせていただければ幸いです。

5. 最後に——心からの謝意を込めて

最後になりましたが、この2年間私を支えてくださった会員のみなさま、とりわけ役員・理事・監事及び各地区P連会長・役員をお務めいただいたみなさま、谷口前会長をはじめとする諸先輩のみなさま、静岡県校長会・静岡県教職員組合・静岡県教育事業団体連絡会をはじめとする教育関係団体のみなさま、そして文字通り縁の下の力持ちとして尽力して下さった県P連事務局・各地区P連事務局のみなさまに心からの謝意を表します。

本当に、本当に、ありがとうございました！



県P連役員を経験して

2年間の静岡県PTA連絡協議会での活動を振り返って 副会長 大川勝弘

初めに2年間、静岡県PTA連絡協議会の副会長として様々な活動に参加できたことを関係したすべての皆様に感謝致します。この2年間では、静岡県内での研究大会開催、県の教育委員会への要望書の提出、日本PTA全国協議会の脱会、県P連の財務改善と多くの課題を各地域の仲間と共に検討してまいりました。私にとっては大きな課題を検討し、貴重な経験をさせていただきました。これから先も県も各地域のPTAも少子化に伴い、組織も内容も変化しなければならないと思います。最後になりますが、これから先に役員をされる方々に協力すると共に、これからも一会員として子育てに積極的に関与していきたいと思います。皆様ありがとうございました。

つなぐ・つながる 副会長 池谷尚志

平成27年度の小学校PTA役員就任を契機に、10年間様々なPTA役員職を務めさせていただきました。当初は前例踏襲に迫られていましたが、次第に「変えていかなきゃいけない」ことに気づきました。年々会員（保護者・教職員）が入れ替わり、それぞれが置かれている就業等の状況も変わっているからです。「子ども達の健全育成」という目的さえ変えなければ、活動の内容を変えてもいい、むしろ変えていかなければならないと思い直し、常に活動の内容を見直して「新しいPTAづくり」を心掛けていました。

活動の内容を見直していく上で、PTA活動の大切な役割である「つなぐ・つながる」ことを意識していました。社会情勢の影響により、活動の大半を休止せざるを得ない期間を経て、より一層「つなぐ・つながる」ことの大切さ、有り難さを感じました。

この10年間、多くの方と「つなぐ・つながる」ことができ、多くの貴重な経験を積ませていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。皆さん、ありがとうございました。

子ども達の未来を見据えて、より、良い活動を 副会長 溝口玲子

令和4年度から3年間、県P連の役員を務めさせていただき、関わりあった皆様に深く感謝申し上げます。

又、そこで私自身多くを学ばせていただきました。本来ならばそれを会員の皆様に幅広くお伝えし、共有すれば良かったかなと、今更ながら反省しております。

コロナ禍でかなり翻弄された時期を経て、様々なやり方や団体のあり方等を改めて考える機会でもありました。どれが正解かは分かりませんが、県PTA連も地区P連も、上でも下でも無い、各校の単Pの会員の皆様が1つになった組織です。

大切なのは、お互いに手と手を取り合い、様々な問題解決に導きあい、声を出し合ったり届けたり…子ども達の未来を見据えてより良い活動を行っていただければ自ずと理解深まり協力もし合えるのではないのでしょうか。

皆様の「ウェルビーイング」、そしてこれからも益々のご活躍と、県P連のご発展を心よりお祈りいたしております。

Reflection ～激動の一年間を終えて～ 理事・第70回静岡県PTA研究大会静岡大会実行委員長 鈴木慎太郎

今回は役員退任の挨拶をさせていただく機会をいただき、心より感謝申し上げます。

在任中は、静岡県P連役員の皆様、事務局の皆様には本当に多大なご支援をいただき、ありがとうございました。おかげさまで、静岡県P連での活動を無事に終えることができました。

この間、様々な活動に参加させていただきました。その中で、第70回静岡県PTA研究大会静岡大会では実行委員長を務めさせていただき、この大きな舞台上、私らしく振る舞う事が出来たのは仲間たちのおかげです。そして、この経験はかけがえのない宝物となりました。また、関係する方々との連携を通して、様々な課題を乗り越え、PTAの発展に貢献できたと感じていますし、この大会が今後「新しいPTAを創り出す」転機となれば最高です。

昨年度、静岡県P連はプロセスを踏み日P連から退会し、新たな体制でスタートしました。後任の役員の方々には、静岡県P連をさらに発展させていただければ幸いです。そして、学校の先生方、保護者の皆様には、PTA、学校、地域との連携を深め、子どもたちの未来をより良いものにしていただきたいと願っています。

最後に、私の好き勝手に皆様にご迷惑をおかけしたことと思いますが、静岡県P連の一員として、激動の時代に携わった事、皆さんと楽しく充実した時間を過ごせた事は大きな収穫でした。今後とも、静岡県P連に変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

PTA 活動で学んだこと 理事 松下満彦

PTA 活動に参加し、理事としての役割を務めたことで、多くの貴重な経験を得ました。まず、保護者、教師、地域の方々と連携しながら活動することで、異なる立場の意見を尊重し、調整する力が身につきました。特に、行事の企画・運営では、協力の大切さやスムーズなコミュニケーションの重要性を実感しました。

また、PTA 活動を通じて、子どもたちがより良い環境で学び、成長できるよう支援することの意義を深く理解しました。学校と家庭、地域社会のつながりが子どもたちの健やかな成長に欠かせないことを実感し、今後もこの経験を活かして地域貢献に努めたいと考えています。

PTA 活動は時に大変なこともありましたが、多くの方々と協力しながら問題を解決する力を養うことができました。退任後も、この経験を大切に、地域や子どもたちのためにできることを考えていきたいと思えます。

PTA 活動から学んだこと 監事 加藤千恵

長女が中学一年の時にPTAの役員決めがありました。なかなか決まらずにいた事もあり、思いきって立候補したのは次期会長。初めは娘が卒業すれば役員も降りるからそこまで…のつもりでした。しかし翌年から沼津市P連副会長からの家庭教育委員長。県P沼津大会までも経験し、県P監事と単Pの顧問として今まで役員を引き受け、気付けば7年、まさかこんなに…というのが感想です。これまでに多くの人達と出会い、共に活動してきました。この多くの出会いは私にとって大変貴重です。私のモットーは、できる人ができる時にやればいい。せっかく役員をやるならムリなく楽しく活動したいという思いから自然に口に出ていました。今でも同じ気持ちで活動に参加しています。

これから先、更なる児童生徒数の減少に加え、戦いのような役員決め、またPTAの在り方が問われている昨今、自分も含め子供達と一緒に楽しく地域や学校で過ごす為には、どうしたら良いのかを考え、活動しなければならないとつくづく思います。役員を引き受けてみてそれなりに忙しくなりましたが、何も知らない、関心を持たないという事はあってはならないと思います。無理矢理やったり、強引に押し進めたりするのではなく、少しでも興味関心を持ってもらえるように活動しなければならない、という事を学びました。

ここまで関わって頂いたたくさんの方々への感謝を忘れずに、これからもいろんな事を学んでいこうと思います。ありがとうございました。

「今」想うこと 監事 磯田辰哉

初めてPTAという組織に携わってから、概ね十有余年の月日が流れ、今日まで活動に勤しんでまいりました。小学校、中学校での会長職を務めた際、活動の内容、行事をいかに効率よく、また会員に負担をかけずに行うことが最重要と捉えておりましたので、PTAは誰のための組織であるか、考えたのは今回が初めてだったかもしれません。PTA活動は保護者と教員が協力し子供たちの教育環境を向上させるための組織であるわけですが、子供たちのために、の部分が大分欠如していたように感じます。現代社会における昨今、両親共働き、ひとり親家庭は当たり前になり、日中はおろか夜間、休日、多様な時間帯での活動は特定の人に負担となるばかりではありますが、現代の少子社会において、子供の社会性を伸ばすには、地域で活発な集団活動の機会を持ち、様々な人と触れ合うことが出来るようにすることが特に重要なことになってきます。地域の住民や団体が参画し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指していかないといけない中、PTAとして、一人の保護者として、子供たちのために何が出来るか真剣に考える時代となったのではないかと感じる今日この頃であります。

一年間ありがとうございました。

新役員 紹介 東部

このたび、ご縁をいただき、令和7・8年度の東部PTA連絡協議会 会長をお引き受けすることとなりました。駿東郡小山町より参加しております、山崎 豊と申します。

静岡県東部は、富士山の麓から駿河湾、そして伊豆半島にまで広がる、自然と文化の豊かな地域です。私の暮らす小山町には、昔ばなし『金太郎』ゆかりの金時山や金時公園があり、子どもたちがのびのびと遊ぶ姿に、日々元気をもらっています。

時代とともに、PTAのかたちは少しずつ変わってきていますが、「子どもたちの育ちを地域みんなで支える」という思いは、今も変わらず私たちの真ん中にあります。広い東部地区ならではの多彩な実践や知恵を持ち寄り、支

え合い、学び合える場を大切にしていきたいと考えています。

出会いとつながりを力に、笑顔あふれる活動をみなさまとともに歩んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度 東部PTA連絡協議会 役員一覧 [単P連一覧]

地区P連名	氏名	所属単P
賀茂地区	中村 智子	東伊豆町立熱川中学校
田方地区	杉山 暁彦	伊豆市立中伊豆小学校
伊東市	土屋 征二	伊東市立門野中学校
熱海市	出口 恵	熱海市立多賀中学校
三島市	中村 晃	三島市立中郷中学校
南駿地区	古森 愛奈	清水町立西小学校
裾野市	川村 利通	裾野市立南小学校
沼津市	伊奈 知美	沼津市立浮島小学校
御殿場市	北村 和之	御殿場市立御殿場中学校
小山町	鈴木 達哉	小山町立明倫小学校
富士市	服部 英之	富士市立富士中学校
富士宮市	荻 真教	富士宮市立富丘小学校

[東P連役員・県P連役員]

東P連役員	氏名	所属単P	県P役員
会 長	山崎 豊	小山町立小山中学校	
副 会 長	杉山 暁彦	伊豆市立中伊豆小学校	理 事
家庭教育委員東P代表	縄田 江梨	御殿場市立御殿場中学校	理 事
理 事	土屋 征二	伊東市立門野中学校	理 事
理 事	荻 真教	富士宮市立富丘小学校	監 事
幹 事	古森 愛奈	清水町立西小学校	
幹 事	服部 英之	富士市立富士中学校	

東部地区PTA連絡協議会事務局

〒421-0042 御殿場市萩原 364

御殿場市立御殿場中学校

PTA連絡協議会

電 話 0550 - 82 - 0356

FAX 0550 - 82 - 0353

新役員 紹介 中部

◇会長あいさつ

令和7年度、中部地区PTA連絡協議会会長を務めさせていただく事となりました、横山敦志と申します。同時に静岡県PTA連絡協議会の副会長も務めさせていただきます。

昨年度大きな動きがあり静岡県P連として、今年度より日本PTAからの脱会を決めました。全国組織から離れる事となりますが、いい機会ととらえ今後は県独自に自立（自律）を目指し、より会員の皆様と近い存在で、子供達の健全育成のために活動していきたいと思っております。

中P連としましても各市P連携のもと、子供達の興味が湧くような何か楽しい企画を考えていきたいと思ひます。

子供達の笑顔あふれる学校生活のために、そして笑顔の輪が子供から親へ、そして地域に広がるように、ぜひ皆様にもご協力をお願いしたいと思います。

それでは一年間よろしくお願いいたします。

中P連役職	地 区	氏 名	県専門委員	県P役職	所属PTA
会 長	藤 枝	横 山 敦 志	校外生活 顧問	県 副 会 長	藤 枝 市 立 岡 部 中 学 校
副 会 長	島 田	石 澤 一 成	成人教育委員会		島 田 市 立 初 倉 南 小 学 校
	静 岡	小 澤 貴 弘	校外生活委員長	県 理 事	静 岡 市 立 東 中 学 校
理 事	焼 津	四之宮慎一	成人教育委員会	県 理 事	焼 津 市 立 大 村 中 学 校
	藤 枝	永 井 優	広 報 委 員 会		藤 枝 市 立 瀬 戸 谷 小 学 校
母 親（家庭教育）	小 笠	森 浩 子	家庭教育委員会	県 理 事	掛 川 市 立 大 浜 中 学 校
監 事	小 笠	牧野亜利香	家庭教育委員会		菊 川 市 立 小 笠 東 小 学 校
	榛 原	池ヶ谷紀佐	広 報 委 員 会	県 監 事	牧 之 原 市 立 川 崎 小 学 校
顧 問	焼 津	池 谷 尚 志			焼 津 市 立 豊 田 中 学 校

◇令和7年4月17日に総会を開催しました。

- 1 開会の言葉
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 議事
 - (1) 令和6年度事業報告並びに会計決算報告
 - (2) 令和7年度役員選出
 - ・ 中部地区P連役員選出
 - ・ 県P連役員選出
 - ・ 新役員あいさつ
 - (3) 令和7年度事業計画（案）
 - (4) 令和7年度会計予算（案）
- 5 諸連絡
 - ・ 負担金について
 - ・ PTA 地区指導者研修会について
 - ・ その他
- 6 閉会の言葉

◇令和7年度 事業計画

- | | |
|-------------|-----------|
| 中P連総会 | 4月17日（木） |
| PTA指導者地区研修会 | 6月～11月 |
| | 各地区別研修を実施 |
| 中PTA連役員会 | 1月16日（金） |
| 会計監査 | 3月下旬 |

中部地区PTA連絡協議会事務局



〒424-8701
 静岡市清水区旭町 6-8
 静岡市役所清水庁舎
 静岡市教育委員会学校教育課内
 電 話 054 - 351 - 1740

新役員 紹介 西部

西部地区PTA連絡協議会は、浜松市・磐田市・袋井市・湖西市・森町の五地区P連からなり、西部地区の小中学校の単位PTAで構成されています。

会長は、磐田市P連の山崎貴美（磐田市立豊田南中学校所属）が務めます。西部地区選出の長澤秀幸県P連会長（浜松市立東部中学校所属）を支え、西P連役員、地区P連会長及び事務局の皆さんと力を合わせて活動していきたいと思います。

PTA活動は、会員数の減少、活動の削減といった厳しい状況があります。だからこそ、保護者の声をまとめ、関係機関へ届けることや活動の精選などを進めるとともに、PTAの意義を問い直し、子供たちの未来をつくるPTAの在り方を考えていきます。

西P連としても組織の在り方の検討を進め、情報交換を密にして各地区PTA活動の円滑化や持続可能な組織づくりを進めてまいります。

令和八年度には、浜松市で県PTA研究大会が開催されます。西P連においても大会開催に向けて協力してまいります。今後とも温かな御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

令和7年度 西P連県役員

西P連役職	氏 名	地 区	所属PTA
副会長（西P連会長）	山崎 貴 美	磐 田	磐田市立豊田南中学校 PTA
副会長	太田かおり	浜 松	浜松市立細江中学校 PTA
理 事	濱田 祐 輔	磐 田	磐田市立神明中学校 P T A
理 事	江川 琢哉	湖 西	湖西市立白須賀小学校 PTA
理事（家庭教育）	大石 希 和	袋 井	袋井市立浅羽中学校 P T A
監 事	多米 治 彦	森	森町立旭が丘中学校

令和7年度 西P連一覧

地区P連名	氏 名	所属PTA
森 町	多米 治 彦	森町立旭が丘中学校
磐 田 市	濱田 祐 輔	磐田市立神明中学校
袋 井 市	長谷加奈枝	袋井市立浅羽中学校 P T A
湖 西 市	江川 琢哉	湖西市立白須賀小学校 PTA
浜 松 市	有蘭亮太郎	浜松市立雄踏小学校 PTA



西部地区PTA連絡協議会事務局

〒438-8650 磐田市国府台3-1
磐田市教育委員会学校教育課
PTA連絡協議会

電 話 0538 - 37 - 4923
F A X 0538 - 36 - 3205

◆編集後記◆

黄緑色のやわらかな新緑が、徐々に深緑へと移り変わっていく季節となりました。4月に新入生として入学した児童・生徒たちも、日々の学校生活の中で少しずつ新しい環境に慣れ、緊張が和らいできた頃ではないでしょうか。

私自身も、この4月から新たな職場で勤務を始めました。慣れない環境の中で、何が分からないのかさえ分からないという、不安に満ちた日々のスタートでした。そのような中で改めて思い出されるのは、前任校で耳にしていた「昨年度と同じように」「〇〇ができて当たり前」といった言葉です。当時はあまり気に留めていなかったこれらの言葉が、実は児童・生徒や保護者の皆さん、さらには新しく赴任してきた教職員に対して、どれほど大きなプレッシャーや不安を与えていたのか、今になってその重さに気づかされ、深く反省する毎日です。

新しい環境に飛び込むことの難しさと、それに寄り添う姿勢の大切さを実感しながら、今後はより一層、周囲への思いやりと配慮を大切にしていきたいと思っています。

「小さな親切」運動静岡県本部主催

第13回「小さな親切」 作文コンクール 募集

テーマ 小さな親切

応募資格 小学生・中学生
(小中学生と同じ年齢のものを含む)

締め切り 2025年9月10日(水)必着

入賞発表 2025年10月下旬
新聞紙上、「小さな親切」運動静岡県本部ホームページ等

表彰式 2025年11月下旬 「小さな親切」運動表彰式

主催:「小さな親切」運動静岡県本部 後援:静岡県/静岡県教育委員会/静岡県校長会/静岡県私学協会/静岡県PTA連絡協議会/静岡新聞社・静岡放送

参加賞
 応募してくれた
 児童・生徒全員に
 オリジナルグッズ
 をプレゼント!

応募方法 400字詰め原稿用紙 3枚以内
(本文1,200字)
作文の冒頭に題名、学校名、学年、氏名とフリガナを書いてください。
学校でまとめて応募し、「応募添付書」に必要事項を明記してお送りください。

賞 静岡県知事賞
静岡県教育長賞
「小さな親切」運動静岡県本部賞
金賞
銀賞
入選

ARIGATO



応募添付書は
こちらから
ダウンロード
できます!



YouTubeにて
上位入賞者の
作文朗読を
紹介!



送り先 「小さな親切」運動静岡県本部 作文コンクール係 宛
〒424-8677 静岡市清水区草薙北2-1 静銀総合サービス株内
TEL:054-347-3712 FAX:054-344-0401



県P新聞 6月号

2025年6月15日発行

〈発行〉静岡県PTA連絡協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12

静岡県教育会館 4F

☎ 054(253)8223 FAX 054(251)96



〈編集〉大日三協(株) ☎ 054(263)2435